

横須賀市立長井小学校「学校いじめ防止基本方針」

策定 平成26年4月1日

改定 令和8年4月1日

1 いじめ防止等に向けた基本姿勢

《いじめの定義》

法第2条にあるように、「いじめ」とは、「児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているもの」をいいます。

いじめは、いじめを受けた児童の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命または身体に重大な危険を生じさせる恐れがあります。本校では、全ての児童が安心して学校生活を送り、有意義で充実した様々な活動に取り組むことができるよう、いじめ防止に向けて日常の指導體制を定め、いじめの未然防止を図りながらいじめの早期発見に取り組むとともに、いじめを認知した場合は適切に且つ速やかに解決するための「学校いじめ防止基本方針」を定めます。

2 いじめ防止等に取り組むための校内組織

いじめの未然防止のためには、学校を中心に広く社会全体で取り組む必要があります。そこで本校では、いじめの防止等を実効的に行うため、以下の構成員により「学校いじめ防止対策委員会」を設置します。

学校いじめ防止対策委員会

学校内	校長
	教頭
	児童指導担当
	支援教育コーディネーター
	養護教諭
	児童指導部
	スクールカウンセラー
	登校支援相談員
学校外	学校運営協議会委員

〈会議の開催形態〉

「校内いじめ防止対策委員会」（日常的な関係者の会議）

児童の問題行動等に係るに情報の共有、いじめの防止等に係る取組方針の企画立案などのための打ち合わせを行います。いじめ事案発生時は緊急会議を開いて対応を協議します。原則として、月1回開催します。

〈活動内容〉

- ・いじめ対応への検討・対応方針の決定
- ・いじめ相談・通報対応

〈年間指導計画〉

いじめ防止の観点から、学校教育活動全体を通じて、いじめの防止に資する多様な取組を体系的・計画的に行うため、いじめの早期発見の取組、早期対応の取組、いじめへの対応に係る教職員の資質能力向上を図る校内研修など、年間の指導計画を別に定めます。（別紙） また、本方針に基づく取組の実施状況を学校評価に位置づけ、その結果を次年度の取組へと反映させます。

3 いじめの未然防止

- ア いじめの特質等について、校内研修や職員会議を活用し、平素から教職員全員の共通理解を図ります。
- イ 職員が児童を一人の人間として尊重し、日頃から児童の心に寄り添うことを心がけます。
- ウ 学校の教育活動全体を通じた道徳教育や人権教育の充実、読書活動・体験活動などの推進により、児童の社会性を育むとともに他人の気持ちを共感的に理解できる豊かな情操を培い、自他の存在を等しく認め、お互いの人格を尊重する態度を養います。
- エ 授業についていけない焦りや劣等感などが過度なストレスとならないよう、一人ひとりを大切にしたり分かりやすい授業をめざします。
- オ 学校の教育活動全体を通じ、児童が活躍でき、他者の役に立っていると感じることのできる機会を全ての児童に提供し、自己有用感が高められるよう努めます。
- カ いじめは、学校や家庭だけの問題ではなく、すべての大人たちの問題として取り組む必要があることから、日頃から家庭や地域との共通理解を図るため、開かれた学校づくりに努めます。
- キ 携帯電話等でのメールやインターネットを介した、いじめやトラブル、犯罪被害の防止に努めます。

4 いじめの早期発見

ア いじめは大人の目に付きにくい時間や場所で行われたり、遊びやふざけあいを装って行われたりするなど、大人が気付きにくく判断しにくい形で行われることが多くあります。そこで、ささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いを持って、早い段階からの確に関わりを持ち、いじめを隠したり軽視したりすることなく、いじめを積極的に認知するよう努めます。

①休み時間や放課後の雑談の中での児童の様子 of 把握

②個人面談、家庭訪問、アンケート等による把握

イ 児童・保護者、教職員がいつでもいじめに関して相談できるよう、相談窓口を周知するための工夫をするとともに、年間を通して教育相談を受け付け、実態把握に努めます。

①相談窓口の周知

長井小学校校長・教頭：046 - 856 - 1299

横須賀市教育委員会 こどもの悩み相談ホットライン：046-822-6522

24時間子どもSOSダイヤル（教育相談センター）：046-681-8111

②保健室だより、相談室だよりの発行

③教育相談 通年

④スクールカウンセラー（状況によってスクールソーシャルワーカー）の活用

ウ 定期的な学校生活アンケート調査を実施し、児童の状況を客観的な把握に努める。アンケートについては、安心していじめを訴えられるよう記名にするなど工夫します。 学校生活アンケートの実施 年2回

5 いじめへの対処

ア 発見・通報を受けた場合には、特定の教職員で抱え込まず、速やかに組織的に対応します。そして、教職員全員の共通理解の下、保護者の協力を得て、関係機関・専門機関と連携し、対応に当たります。

イ 遊びや悪ふざけなど、いじめと疑われる行為を発見したら、その場でその行為をやめさせます。また、児童や保護者から「いじめではないか」との相談や訴えがあった場合は、真摯に傾聴し、ささいな兆候であっても、いじめの疑いがある行為には、早い段階からの確に関わりを持ちます。

ウ いじめの事実が確認された場合は、いじめをやめさせ、その再発を防止するため、いじめを受けた児童・保護者に対する支援と、いじめを行った児童生徒への指導とその保護者への助言を継続的に行います。

エ いじめを受けた指導が安心して教育を受けられるための必要があると認められるときは、保護者と連携を図りながら、一定期間、別室等において学習を行わせる措置を講じます。

- オ 犯罪行為として取り扱われるべきいじめについては、教育委員会及び所轄警察署等と連携して対処します。
- カ 学級全体で話し合うなどして、いじめは絶対に許されない行為であり、根絶しようという態度を育むようにします。
- キ インターネット上のいじめについては、より大人の目に触れにくく、発見しにくい
ため、学校における情報モラル教育を進めるとともに、保護者に対してもネット上
のいじめへの理解を求めていきます。また、ネット上の不適切な書き込み等につい
ては、被害の拡大を避けるため、保護者とともに直ちに削除する措置をとります。
- ク 具体的な対応については、横須賀市教育委員会「いじめ問題の理解と対応」冊子に
則って行います。

6 重大事態への対応

ア いじめによる重大事態とは

- ・ いじめ、体罰、学校問題により、子どもの生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認めるとき。
- ・ いじめ、体罰、学校問題により子どもが相当の期間、欠席を余儀なくされている疑いがあると認めるとき。

イ 重大事態への対応

上記の重大事態が発生した場合は、国の「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」により適切に対応します。具体的な対応は以下の通り。

- ・ 重大事態が発生した旨を、教育委員会に速やかに報告します。
- ・ 教育委員会と協議の上、当該事案に対処する組織（学校が調査主体の場合は学校いじめ防止対策委員会、教育委員会が調査主体の場合は横須賀いじめ等課題解決専門委員会）を設置します。
- ・ 上記組織を中心として、事実関係を明確にするための調査を実施します。
- ・ 上記調査結果については、いじめを受けた児童・保護者に対し、事実確認その他の必要な情報を適切に提供します。

7 体罰の根絶

ア 体罰によらない指導の充実

- ・ 教職員の資質向上のための研修を行うなど、指導体制を整え、体罰を許さない学校づくりを実践します。
- ・ 子どもの生活に関するアンケートや教育相談を実施して、子どもが体罰を訴えやすい体制を整えます。

イ 体罰発生時の対応

- ・ 子どもの怪我の状況を素早く確認して対応するとともに、体罰が発生した経過

と状況を明らかにします。

- 体罰が発生した経過と状況を保護者に説明します。また速やかに教育委員会に報告します。
- 体罰を加えた教職員に対しては聞き取りを行い、必要な措置を行います。